

Bus Plaza

源氏物語・百人一首・論語...

暗唱 やはり 大切



教師に暗唱できるか聞いてもらう生徒たち(杉並区立天沼中学校)

源氏物語に枕草子。各地の小中学校で、古典などを暗唱させる指導法が息を吹き返している。背景にあるのは、子供の基礎学力の低下が課題となるなか、暗唱力の大切さを見直す機運の高まり。学校側は「記憶力を鍛えるだけでなく、教養も身につけてほしい」と期待を寄せ、独自の教材づくりにも知恵を絞っている。

「昔はあつぽの、よつよ、うらなびの、うらなび...」。12月上旬の朝、東京都杉並区にある区立天沼中学校の教室に、枕草子などを暗唱する子供たちの声が響き渡った。1文を暗唱できたら生徒には、試験官役の教師が、同校特製の暗唱用教材に「良し」の判を押す。2年の池田千聖さん(14)は「暗唱を始めてから、古典などの難しい文章を眺めるのが楽しくなった」と笑顔を見せた。

同校は昨年、全校生徒を対象に、授業開始前の10分を使って古典などを暗唱させる取り組みを始めた。指導に当たっては、教師が知恵を出し合って教材「二篇百選」を作成。収録した作品は「走れメロス」や「論語から」日本国憲法前文」など計99点に及ぶ。

藤川章校長は「記憶力や

記憶力・語彙力鍛えれば 基礎学力アップや教養

各地の教育現場で進む暗唱の復権。昔ながらの指導法が見直されている。事には、「ゆとり教育」で低下した子供たちの基礎学力を暗唱力の向上で取り戻そうという狙いがある。

**「ゆとり」見直し
昔ながらの指導**

ゆとり教育の導入で学習内容は減り、教科書に掲載される文学作品は、時、少なくはなつたが、その後の国際的な学力調査などを通じて、児童生徒たちの学力不足が顕明になった。

文部科学省は小学校で2011年度、中学校では12年度に、それぞれ全面実施した国語の学習指導要領に「伝統的な言語文化の指導」を明記。小学校から古典に親しむ指導をすすめるよう求め、古文の「竹取物語」や漢文の「春曉」などを取り上げる教科書も増えた。

横浜国立大の高木まさき教授(国語教育)は「『量本』を使って、学習の根本は国語教育にある」と指摘。「暗唱を使って、幼いころから自然に語彙を身につければ、その後の学習を進めるうえで基礎もできる」と強調している。

語彙力を鍛えるだけでなく、教養のある社会人に育ててもらいたい」と導入の狙いを話す。「合格印をもらえるという成果が、生徒のやる気を引き出している」という。

暗唱力を重視した同様の指導法は、各地の小中学校でも広がりをみせている。滋賀県東武町の町立竜王小学校は、暗唱用の文章を印刷したプリントを月2回のペースで配布。プリントの内容は、十二支から論語の一節まで様々だ。

「低学年のうちから難解な文に触れてほしい」と、甲津和寿校長と、学年による難易度の差は設けていない。暗記できたと思つた児童は教師の前で暗唱。成功したら専用のシールに合格シールを貼ってもらう。

教師に成果を見てもらうと、児童が昼休みの職員室に詰めかけることも。甲津校長は「苦手だった暗記

小さな命に心癒やされる



「めだか」

驚きです。環境汚染が進むにつれ、自然界は変化に次ぐ変化を余儀なくされているのです。

そんな中、いづころからか僕らの周りで観賞用のメダカ飼育が流行。小さな命の動きときらめきを見つめれば、僕らの心は癒やされます。

この絵本は、確かな観察で野生のメダカの生態を的確に捉え、僕らとメダカの関係をやより一層楽しくしてくれる一冊です。

(元茨城県筑西市立明野図書館長 三輪巴)

吉崎正巳・さく、
太田一男・監修、
福音館書店、重版
未定・品切れ

こころの一冊

春に5匹のメダカを飼い始めた我が家の水がめでは今、数十匹が生息し、群れています。知人にあげた分や庭に来る鳥や猫にとられたのを含めると200匹以上はかえったはず。あきれればかりの殖え方です。

僕らの子供の頃(1950年代)、メダカはドジョウ、ゲンゴロウ、タニシ、シジミ、カワエビなどとともに、小川に生きる何の変哲もない、身近で親しい水辺の住人でした。

そのメダカが、99年2月には絶滅危惧種の仲間入りをしたというから

を完服し、九九や算数の公式をすらすら覚え始める児童も増えた」という。

暗記の成果を披露できるよつ、百人一首大会を年に2回開催。児童らは競うように和歌を頭にたたき込む。担当の中山健一教師は「卒業生が進学先の中学校で『勉強に熱心だ』『記憶力が豊かだ』と、よく褒められているよつだ」と満足そうに話した。